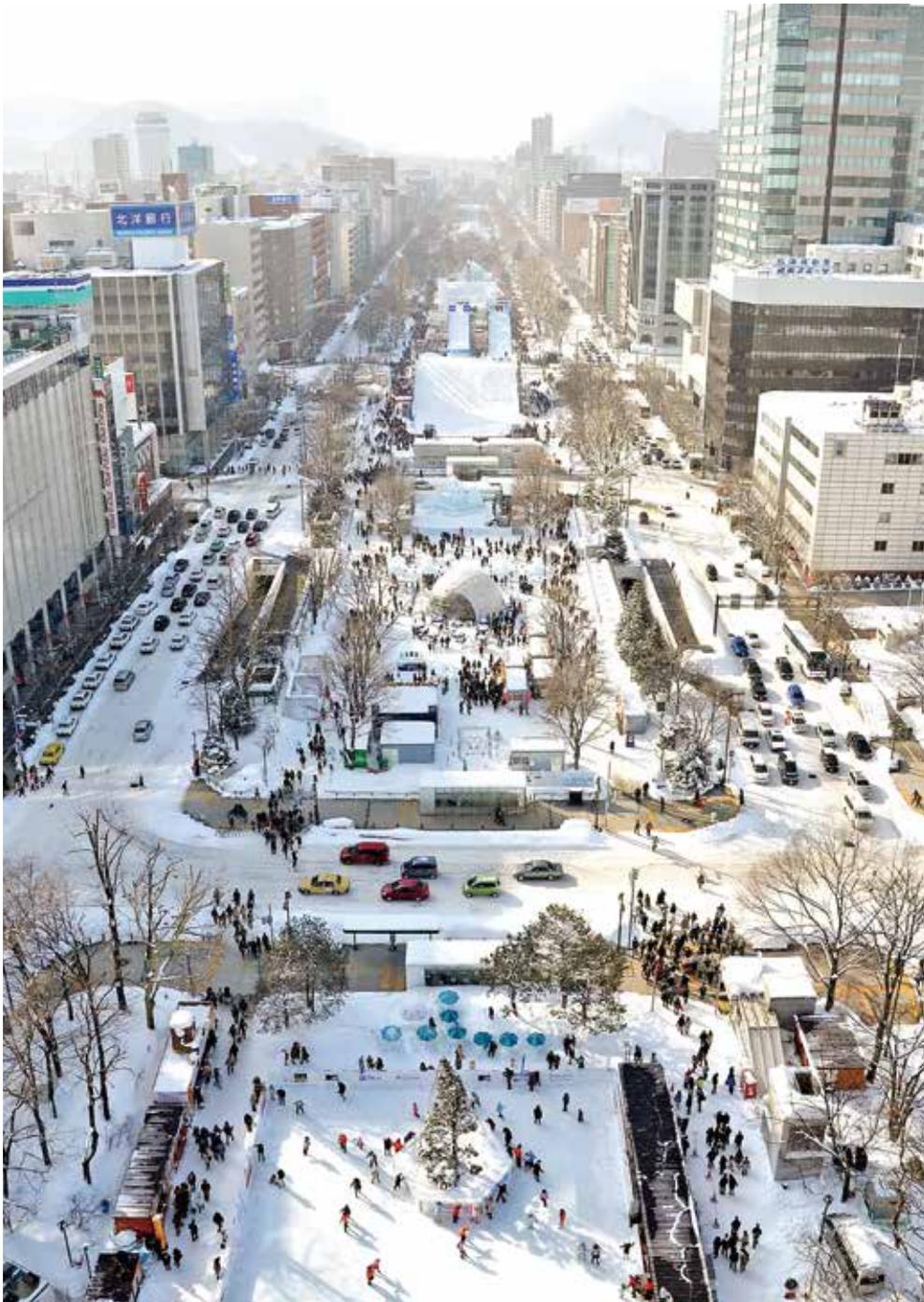


ユネスコ創造都市ネットワーク加盟資格モニタリング報告書

札幌市 **メディアアーツ都市**

2017/11/30





UNESCO Creative Cities Network Monitoring Report

目次

1. イントロダクション/要旨	02
2. 基本情報	03
3. ネットワーク運営への寄与	04
4. 地域レベルの主な取組	06
5. 都市間連携による主な取組	11
6. 今後4年間のアクションプラン	13
付録	16

1. イントロダクション/要旨

札幌は、日本列島北部の島北海道に所在し、年間6メートルもの降雪量がある積雪寒冷地域でありながら、人口約190万人の生活を支える「充実した都市機能」を有し、また、原生林が残る「恵まれた自然環境」や北海道の農林水産資源に近接する「豊かな食環境」なども備える街です。

さらに、「札幌コンサートホール『Kitara』」や「札幌芸術の森」、国際的な教育音楽祭である「パシフィック・ミュージック・フェスティバル(PMF)」といった、創造性を培う基盤となり、世界的にも評価の高い、文化芸術に関連する施設やイベントが多数あります。

札幌市は、こうした創造性を生み出す基盤を背景に、創造都市を都市戦略と位置付け、平成18(2006)年3月には、「創造都市さっぽろ宣言」^{※1}を行いました。

この宣言は、創造性に富む市民と、外部との交流によって生み出された知恵が産業や文化を育み、新しいコト、モノ、情報を絶えず発信していく街「創造都市さっぽろ」を目指すことをうたっています。

その後も、創造性を生かした都心のまちづくり戦略を定めて公共空間の整備を進め、「札幌駅前地下歩行空間」、「創成川公園」、「札幌大通地下ギャラリー500m美術館」、「札幌市北3条広場」等、都心における文化的活動の連続性を創り出す一大ネットワークが形成されています。

また、市民、企業の創造性を生かした産業の振興として、全国に先駆けたIT産業の振興、映像関連産業の振興や「札幌国際短編映画祭」の開催、クリエイターや企業などの新たなビジネスの創出を支援する施設である「インタークロス・クリエイティブ・センター(ICC)」の運営を通じて、クリエイティブ産業の振興を図っています。このような取組などの結果、クリエイティブ産業における雇用創出にも一定の成果を上げたほか、地域映像コンテンツの海外輸出額、来札外国人宿泊者数の増加などにも寄与してきました。

観光分野に関しても、プロジェクションマッピング等の演出により、新たな魅力を得た「さっぽろ雪まつり」の来場者は増加傾向

にあり、テクノロジーを活用した先進的な取組により「さっぽろホワイトイルミネーション」の付加価値向上を図ってきました。

こうした取組が評価され、平成25(2013)年11月に、札幌市はユネスコ創造都市ネットワークへの「メディアアーツ都市」としての加盟を認められました。

以来、年次総会をはじめとした各種会議への参加等を通じて、ネットワークの運営に参加するとともに、都市間連携・交流として、加盟都市との国際シンポジウムや共同展示会の開催、アーティスト交換プログラムの実施等の取組を行ってきました。

地域レベルでは、これまでに整備してきた都市基盤と創造性を生かした取組により、経済活性化や市外からの集客・交流を図っており、平成26(2014)年には、「創造都市さっぽろ」の象徴的の事業として、札幌国際芸術祭が初めて開催されました。

今年は、このトリエンナーレの第2回となる「札幌国際芸術祭(SIAF)2017」が開催されるとともに、先端テクノロジーや斬新なアイデアを核に「新しい価値観」「新しい文化」「新しい社会の姿」を提案するビジネスコンベンション「No Maps」の本格開催を迎えた、メディアアーツ都市札幌にとって記念すべき年です。

札幌市は、本報告書のとおり、今後も「創造都市さっぽろ宣言」と、文化と創造性を戦略的要素として認識するまちづくりビジョン^{※2}のもと、本市の魅力向上に向けて分野横断的に施策を進めていきます。

その際に、ユネスコ創造都市ネットワークは、本市の活動の成果や課題を世界の都市と共有し、人材交流と連携により新たなアイデアを見出し、地域の課題解決につなげるための重要なプラットフォームとなると考えています。

札幌市は、ネットワークを通じた国際的な連携のもと、文化と創造性による持続可能なまちづくりの実践を通して、このネットワークのミッションへ、ひいては「ニュー・アーバン・アジェンダ」や「2030アジェンダ」といった世界的ビジョンへの貢献を図ってまいります。

※1:付録II参照 ※2:付録III参照



2. 基本情報

2.1.	都市名	札幌市
2.2.	国名	日本
2.3.	加盟分野	メディアアーツ
2.4.	加盟認定日	平成 25(2013)年 11月 11日
2.5.	最新報告書の提出日	平成 29(2017)年 11月 30日
2.6.	報告書作成責任者名	札幌市市民文化局文化部
2.7.	前回提出した報告書及び提出日	-
2.8.	連絡担当者	札幌市市民文化局文化部文化振興課 創造都市ネットワーク担当係長 木村朋路 ✉ creativecity@city.sapporo.jp



3. ネットワークの国際的運営への寄与

札幌市は、下記のとおり、総会や幹事会、分野別会議への参加を通じて、ネットワークの国際的運営へ貢献しています。

3.1. 過去4年間のUCCN年次総会への参加回数

加盟以降4回、全ての会議に代表者が参加しています。

- 平成26(2014)年9月 成都/中国
- 平成27(2015)年5月 金沢/日本
- 平成28(2016)年9月 エステルスンド/スウェーデン
- 平成29(2017)年6月 アンギャン=レ=バン/フランス

3.2. UCCN年次総会の開催実績

3.3. 特定の創造分野の代表者が参加した作業・連携会議開催実績

メディアアーツ分野のサブネットワーク会議に積極的に参加しています。

- 平成27(2015)年11月 光州/韓国
『アジア文化フォーラム』での講演、意見交換を実施。
- 平成28(2016)年3月 オースティン/アメリカ
『サウス・バイ・サウスウェスト』出展と併せて担当者会議に参加。
- 平成28(2016)年6月 アンギャン=レ=バン/フランス
『バン・ニューメリック』での担当者会議に参加。
- 平成29(2017)年3月 オースティン/アメリカ
『サウス・バイ・サウスウェスト』出展と併せて担当者会議に参加。

3.4. ネットワーク加盟都市が参加した国際会議・ミーティング開催実績

6会議を主催。

- 平成26(2014)年3月
『加盟記念フォーラム「メディアアーツ都市は何をめざすのか？」』
参加都市: アンギャン=レ=バン/フランス
- 平成26(2014)年8月
『創造都市政策セミナー』、『創造都市ネットワーク日本幹事団体会議』
参加都市: 金沢、神戸、篠山、鶴岡、浜松/日本
- 平成26(2014)年9月
『メディアアーツ都市国際会議』
参加都市: 金沢、神戸、名古屋/日本
- 平成27(2015)年2月
『メディアアーツ都市国際会議』
参加都市: 金沢、神戸、名古屋/日本
- 平成27(2015)年2月
『メディアアーツ都市国際シンポジウム』
参加都市: アンギャン=レ=バン/フランス
- 平成27(2015)年11月
『フランス・ヴァルドワーズ県セミナー』
参加都市: アンギャン=レ=バン/フランス
- 平成29(2017)年10月
『メディアアーツ都市札幌 x No Maps メディアアーツ・ミートアップ』 ※5.1.4.に再掲
参加都市: リンツ/オーストリア



Ⅰ 会議を共同開催。

- 平成 28(2016)年 10月
シンポジウム『日本へのクリエイティブな旅』※5.1.1.に再掲
場所: ユネスコ本部(パリ/フランス)
参加都市: アンギャン=レ=バン/フランス、金沢、神戸、鶴岡、浜松/日本

Ⅰ 会議に参加。

- 平成 28(2016)年 6月
北京/中国『ユネスコ創造都市北京サミット』

3.5. UCCN の運営・広報等を目的とした財政的支援及び現物支給等

財政的な支援は未実施ですが、札幌市役所のWEBサイトや市内等で配布するパンフレット等の広報媒体を通じ、UCCNに関する日本語での広報・PRを実施しています。

3.6. 幹事会への参加期間

平成 27(2015)年 7月～平成 28(2016)年 9月

3.7. 加盟申請書の審査への参加。

メディアアーツ分野での申請都市4都市の審査へ参加

- 平成 27(2015)年加盟審査 2都市
- 平成 29(2017)年加盟審査 2都市



4. UCCNの目標達成に向けて地域レベルで実施する主な取組

札幌市では、文化と創造性による持続的なまちづくりを目指して、各種の文化施設の設置や都心における創造的公共空間の整備を進めてきました。これらの資源を生かして市内の様々な場所で開催される大小のイベント、プロジェクト等を通じて、市民の文化的生活へのアクセス向上、人材育成や創造産業の支援を図っています。

4.1. 文化的生活へのアクセス促進

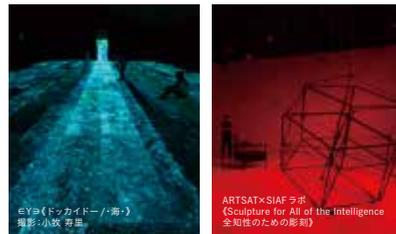
4.1.1. 札幌国際芸術祭(SIAF)

創造都市さっぽろの象徴的事業として、2014年に始まったトリエンナーレ。

- 2017年は2回目の開催となり、現代アートだけではなく、デザインや音楽といった様々なジャンルを扱い、パフォーマンスやライブイベント、市民参加型のプロジェクトなど、多岐にわたるプログラムを実施しました。
- 札幌の特性でもある「都市」の魅力と隣接する豊かな「自然」を感じられるような会場を設定したほか、都心部にも拠点を設けるなど、作品鑑賞だけでなく、まちの賑わいといった都市の魅力を体感してもらえるような取組なども推進しました。

〈札幌国際芸術祭2014〉

開催期間：平成26(2014)年7月19日～9月28日
 参加アーティスト数：64組
 来場者数：478,252人
 市民ボランティア登録数：1,319人



EY@ (ドゥカイドー/海へ)
 撮影：小牧 寿里

ARTS&X SIAFラボ
 (Sculpture for All of the Intelligence
 全知性のための彫刻)

〈札幌国際芸術祭2017〉

開催期間：平成29(2017)年8月6日～10月1日
 参加アーティスト数：146組
 来場者数：381,697人
 市民ボランティア登録数：356人



札幌ムーブリン 撮影：小牧 寿里

伊藤隆介《順序学》 撮影：小牧 寿里

4.1.2. SIAFラボ/札幌市資料館

大正15(1926)年に札幌控訴院として建築された歴史的建造物である「札幌市資料館」を拠点に、平成27(2015)年に開始した札幌独自の芸術祭を実現するためのプロジェクト。

- 「未来のための、札幌を拓く」をテーマに、さまざまなプログラムを通じて、芸術文化活動の担い手である多彩な人々(アーティスト、キュレーター、研究者、コーディネーター、市民活動団体、ボランティアスタッフなど)を繋ぐとともに、芸術祭の情報発信やそれらのアーカイブ化を行っています。また、カフェを併設し、市民やアーティスト等の憩いの場としても機能しています。
- 子供向けのサウンドプログラミング・ワークショップ、冬の特徴的な現象である「つらら」をメディアとしてとらえたアートプロジェクト「Bent Icicle Project - Tulala」、メディアアート分野を中心に国内外で活動しているアーティストやプロジェクトの担い手を迎えたトークイベントやワークショップなども展開しています。



〈平成27(2015)年度〉

イベント開催件数：53件
 参加者数：1,068人

〈平成28(2016)年度〉

イベント開催件数：48件
 参加者数：848人

※参加者数には展示の来館者を除く



4.1. 文化的生活へのアクセス促進

4.1.3. 札幌駅前通地下歩行空間(チ・カ・ホ)

平成23(2011年)3月に供用を開始した札幌駅前通地下歩行空間により、二極化していた札幌駅周辺地区と大通駅周辺地区が結ばれました。

- 四季を通じて、快適に歩いて都心のまち巡りができるようになっただけでなく、歩行空間の両側の「広場」が市民に広く貸し出され、様々なイベント(パフォーマンスや音楽等のイベント、アート作品展示等)が実施されています。
- 通路の中間地点に位置する「北2条広場」には公共サイネージシステムが整備され、ICT(情報通信技術)活用の取り組みの発信や、市民やクリエイターの映像作品の発表の場として利用されています。

〈地下歩行空間通行者数(9時-20時の11時間、H27年9月)〉

平日5.5万人、休日4.4万人(概数、調査:札幌市商店街振興組合連合会)

〈北2条広場空間利用者数(放映番組数及び広場イベント開催件数)〉

平成26年度:148件、平成27年度:146件、平成28年度:150件



4.1.4. 子どもたちの文化芸術活動支援

子どもに文化芸術に触れる機会を提供し、芸術的感性や創造性を育むことを目的に、以下の事業を実施しています。

- 「ハロー!ミュージアム」(平成16(2004)年度～)
市内の小学5年生を「札幌芸術の森」、「本郷新記念札幌彫刻美術館」に招待し、創作・鑑賞活動を行っています。
- 「Kitara ファースト・コンサート」(平成16(2004)年度～)
市内の小学6年生を「札幌コンサートホール『Kitara』」に招待し、オーケストラ演奏を鑑賞してもらっています。
- 「こころの劇場」(昭和54(1979)年度～)
市内の小学6年生をミュージカルに招待しています。

〈参加児童数〉

	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)
ハロー!ミュージアム	12,956	15,068	14,516	14,340
Kitara ファースト・コンサート	15,377	15,241	15,101	14,574
こころの劇場	15,235	15,438	15,195	14,954

また、制作体験にフォーカスした事業として、以下の活動を実施しています。

- 「おとどけアート」(平成20(2008)年度～)
小学校に芸術家を派遣して小学生や地域の人と一緒に創作活動を行っています。

〈活動実績〉

	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)
派遣先学校数	4	3	3
参加児童数	1,603	1,330	1,175

- 子ども向けのプログラミング講座やロボット制作講座
産学官民連携で運営される組織などが、子ども向けのプログラミング講座やロボット制作講座を年間複数回実施するなど、さまざまな体験の機会を提供しています。



4.2. 創造産業の支援

4.2.1. No Maps

先端テクノロジーや斬新なアイデアを核に「新しい価値観」「新しい文化」「新しい社会の姿」を提案するビジネスコンベンション。

- 本格開催となる平成29(2017)年は、「まちに、未来を、インストール。」をテーマに、セミナーやワークショップ、体験展示等を通じて企業や市民に投げかけ、新たなビジネスや社会づくりにつなげていける場の創出を目指した取り組みを推進しました。

〈 No Maps 2016(プレ開催) 〉

全会期:平成28(2016)年4月12日～12月31日 来場者数:27,274人
 メイン会期:平成28(2016)年10月10日～10月16日 来場者数:21,404人

〈 No Maps 2017(本格開催第1回目) 〉

全会期:平成29(2017)年1月1日～12月31日 来場者:—
 メイン会期:平成29(2017)年10月5日～10月15日 来場者:27,294人



4.2.2. インタークロス・クリエイティブ・センター (ICC)

平成13(2001)年4月に開設した、札幌市におけるコンテンツ産業振興の拠点。

- クリエイター等の人材育成に加え、クリエイターや企業の新たなプロジェクト創出や、コンテンツ産業と他産業との連携を促進するための施設として、情報発信スペースや研究・開発スペースなどを提供するほか、セミナーやワークショップの開催など、ソフト面からの支援、コーディネートを実施しています。

〈 利用実績 〉

年度	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)
施設利用者数	N/A	7,092	6,358	6,316



4.2.3. 札幌スタイル

平成16(2004)年から開始された、札幌の街の良好なイメージを活用した地域ブランド「札幌スタイル」を構築し、市内中小企業等の競争力強化を図るため、ブランド力の向上やプロモーション活動の支援を行うプロジェクト。

- 近年では、他産業や他地域と連携した取組に重点的な支援を行っています。
- 4ヶ国語のカタログを発行しているほか、札幌市役所でも、来賓への贈答品等に活用しています。

〈 活動実績 〉

年度	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)
札幌スタイル認証製品数(累計)	180	209	221	229
認証製品を持つ企業数(累計)	69	73	76	77

〈 認証を受けたことによる効果(平成29年7月実施アンケート) 〉

・企業としての知名度・信頼度が向上した	26%	・人的ネットワークが拡大した	15%
・PR・露出の機会が増えた	25%	・企業としての営業実績が向上した	7%
・営業しやすくなった・販路が拡大した	18%	・認証製品の販売実績が向上した	6%
		・今のところ感じられない、その他	3%





4.3. 地域独自の冬の文化の発信

4.3.1. さっぽろ雪まつり

昭和25(1950)年に、地元の中・高校生が作った6つの雪像をきっかけにスタートした札幌を象徴するフェスティバル。市の中心部に東西1.5kmに渡って広がる大通公園などの会場に、高さ15mに及ぶ大雪像をはじめとする約200基の雪氷像が設置されます。

- 昭和49(1974)年からは、国際雪像コンクールを実施し、札幌とつながりの深い外国地域も参加しています。
参加地域：韓国/大田広域市、オーストラリア、ポートランド/アメリカ、フィンランド、ハワイ、インドネシア、ラトビア、マカオ、ポーランド、シンガポール、タイなど
- 平成24(2012)年に、大雪像へ映像を投影する「プロジェクションマッピング」を取り入れて以来、大雪像を舞台に人形劇やオペラを融合したショーなど、メディアアーツの要素を取り入れた新たな取組を実施しており、観客動員も増加傾向にあります。

〈開催期間〉.....
毎年2月上旬から中旬

〈来場者数〉.....

開催年	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)
来場者数(概数)	240.2万	235.0万	260.9万	264.3万

4.3. 地域独自の冬の文化の発信

4.3.2. さっぽろユキテラス／札幌北3条広場

冬の新たな魅力を発信するメディアアーツ都市札幌のシンボルイベント。

- 平成26(2014)年に札幌のメインストリートである札幌駅前通と歴史的観光資源である北海道庁旧本庁舎(赤れんが庁舎)の間の街路を文化・芸術の出会いや憩いの空間へとリニューアルして誕生した「札幌市北3条広場」を舞台に開催しています。
- 平成27(2015)年からスタートし、平成28(2016)年からはUCCNメディアアーツ都市のアーティストを招へいし、UCCNの認知度向上にも資するイベントへと展開しました。札幌の特徴の一つである雪と光をモチーフにした作品を展示し、新たな冬の魅力を発信しています。

〈開催期間〉.....

毎年2月上旬から中旬

〈来場者数〉.....

年度	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)
来場者数(概数)	2万	3.5万	3.7万



4.3.3. ウィンタースポーツの魅力発信

札幌市は、昭和47年(1972年)にアジアで初めてオリンピック冬季大会の開催都市となり、毎年国際・国内大会が多数開催されています。大会や常設施設では、最新のメディア・テクノロジーや地元のコンテンツを活用した演出がなされ、ウィンタースポーツへの新たな関心を喚起しています。

2017冬季アジア札幌大会

- スマートフォンなどで利用できる大会公式アプリでは、最新のテクノロジーを使って、選手目線のVR映像や、好きなアングルからのカメラを選択できるライブ映像など新しい視聴体験を提供しました。また、札幌生まれのバーチャル・シンガー「初音ミク(雪ミク)」が大会PRアンバサダーとなり、寄附記念品にも採用されました。

〈開催実績〉.....

開催期間:平成29(2017)年2月19日～26日
 参加国・地域:32
 参加選手・役員数:2,010人
 観客者数:約83,612人
 公式アプリの利用者:5,750人
 雪ミク記念品付の寄付(5,000円以上):125件
 開催期間中の文化プログラム数:5回

札幌オリンピック・ミュージアム

- スキージャンプなどオリンピック競技を選手の視点で疑似体験できる6種類のシミュレーターで、一年を通じて氷雪の世界のスピード感や飛翔感を楽しめます。
- 巨大な円形シアターでは、ダイナミックな競技映像とオリンピックの伝統と歴史が感じられる印象的な映像を上映しています。

〈来場者数〉.....

年度	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)
来場者数	108,303	116,326	113,378	82,625

※2016年はリニューアル工事のため5ヶ月間休館



5. UCCNの目標達成に向けて都市間連携を通じて実施する主な取組

UCCN への加盟以来、札幌市はメディアアーツ分野の都市との連携を中心に、優良事例の共有や、アーティストや専門家の機会拡大を目的として、下記の取組を進めてきました。

5.1. 連携プロジェクト

5.1.1. 日本へのクリエイティブな旅

日本国内のユネスコ創造都市である5都市と加盟を推進する1都市、関連企業等と連携し、ユネスコ本部において、「文化と創造性」をキーワードに都市の魅力をアピールする展示会・シンポジウム。

- 札幌市内の企業である、クリプトン・フューチャー・メディア株式会社も札幌生まれの世界的バーチャル・アイドルである「初音ミク」を紹介しました。

〈開催実績〉

開催期間：平成28(2016)年10月17日～10月21日
 開催場所：ユネスコ本部(パリ/フランス)
 参加都市：神戸、金沢、浜松、鶴岡、山形/日本、アンギャン=レ=バン/フランス
 来場者数：3,300人



創造都市国際交流実行委員会



創造都市国際交流実行委員会 / クリプトン・フューチャー・メディア株式会社

5.1.2. メディアアーツ分野都市共同展示会「Data City」

2017年次総会の併催事業として、アンギャン=レ=バン/フランスにて開催されたメディアアーツ分野の加盟都市による共同展示会。

- 札幌からの出展作品として、アーティスト平川紀道氏によるモエレ沼公園を題材にした作品「datum」を展示しました。



平川紀道 (datum)

〈開催実績〉

開催期間：平成29(2017)年4月20日～7月13日
 開催場所：アンギャン=レ=バン/フランス
 参加都市：アンギャン=レ=バン/フランス、オースティン/アメリカ、ダカール/セネガル、光州/韓国、リ
 ンツ/オーストリア、リヨン/フランス、テルアビブ/イスラエル、ヨーク/イギリス
 来場者数：2,238人

5.1.3. さっぽろユキテラス

冬の新たな魅力を発信するメディアアーツ都市札幌のシンボルイベント。(4.3.2の再掲)

- UCCN メディアアーツ都市とのアーティスト交換プログラムを実施しています。

参加都市：アンギャン=レ=バン/フランス(平成28(2016)年度)、光州/韓国(平成29(2017)年度)

5.1. 連携プロジェクト

5.1.4. メディアアーツ都市札幌 × No Maps メディアアーツ・ミートアップ

「No Maps」(前掲4.2.1.)が主催する、参加者同士の交流やマッチング、ひいては、芸術・文化振興と産業振興による地域活性化につなげていくことを目的に、国際的に活躍する企業家、研究者、アーティストの実践例とビジョンから、札幌の未来を考えるイベント。

- メディアアーツの分野横断性を生かして、最先端のアート・ビジネス・サイエンスが創造性によってどのように繋がりがながら、社会に影響を与えているかについて、優良事例を共有しました。

〈開催概要〉

開催期間：平成29(2017)年10月6日
 参加都市：リンツ/オーストリア(アルスエレクトロニカ)
 来場者数：88人



5.2. アーティスト・イン・レジデンスの促進

5.2.1. さっぽろ天神山アートスタジオ

平成26年5月、閉鎖中だった市有施設をリノベーションして開館。国内外のアーティストが札幌に滞在しながら創作活動を行うことのできる13室のスタジオや地域住民との交流ができるサロン等を備えています。

〈滞在スタジオ稼働実績〉

年度	H26 (2014)*	H27 (2015)	H28 (2016)
使用者数(延べ)	3,020	3,311	4,249
使用率	56.2%	54.3%	69.0%

*5月31日～



6. 今後4年間のアクションプラン

札幌市では、平成34(2022)年までのまちづくりの指針として、「札幌市まちづくり戦略ビジョン」※3を平成25(2013)年10月に策定しました。また、本ビジョンを実現するための中期実施計画として、平成27(2015)年から平成31(2019)年度までの5年間の期間とする「札幌市まちづくり戦略ビジョン・アクションプラン2015」を平成27(2015)年12月に策定しています。

このビジョン及びアクションプランは、札幌市がまちづくりに文化や創造性を重要な戦略的要素として取り入れているということ、下記に引用する将来像と施策により具体的に示しています。

平成32(2020)年以降のアクションプランは、今後策定することとなりますが、平成18(2006)年の「創造都市さっぽろ宣言」や上記のビジョンを踏まえ、創造性に富む市民と、外部との交流によって生み出された知恵が産業や文化を育み、新しいコト、モノ、情報を絶えず発信していく街、すなわち、「創造都市さっぽろ」を目指してまいります。

※3: 付録III参照

6.1. 地域レベルの取組

6.1.1. 魅力あるまちづくりと観光振興の一体的推進

将来のまちの姿

- 文化芸術やスポーツが、食や観光など様々な産業分野と結びつくことで新たな付加価値を生み出し、街ににぎわいと活力があふれています。

施策

- さっぽろ雪まつりや、さっぽろホワイトイルミネーションなど既存のイベントにおいて、プロジェクションマッピングなどのメディアアーツを活用した演出を行い、魅力を高めます。
- 歴史的建造物である札幌市資料館を札幌市の財産として維持保全するとともに、メディアアーツを中心とする研究・創造と交流・発信の場として活用するためのリノベーションに着手します。

6.1.2. 活力があふれ世界を引きつける都心のまちづくり

将来のまちの姿

- 市内外から多くの人を訪れる都心には、高次な都市機能が集積し、多様な活動を支える場など、札幌の顔となる人を中心とした魅力ある空間が形成されています。

施策

- 「創造都市さっぽろ」を象徴的に発信する場として、札幌における多様な文化芸術活動の拠点としての機能と、市民の仕事やくらしの課題の解決を支援する機能を通じ、多くの人交流する場となる札幌市民交流プラザ(札幌文化芸術劇場、札幌文化芸術交流センター、札幌市図書・情報館)を平成30(2018)年にオープンします。



6.1.3. 将来を担う創造性豊かな人材の育成・活用

将来のまちの姿

- 子どもたちは、一人一人の個性や特性を伸ばす充実した教育を受け、伸び伸びと遊ぶことを通じて、生きる力を高め、豊かな想像力を身につけながら成長しています。

施策

- 科学や科学技術の普及啓発を通じた創造性豊かな人材の育成のため、青少年科学館の展示物等の更新や改修に向けた基本構想を策定するとともに、理科授業プログラムを構築します。
- ICTを活用した授業を日常的に実施できるよう、タブレット端末などの機器や教材の整備などを行います。
- 子どもたちが、多様な文化芸術に親しむ環境を充実させます。



6.2. 国際レベルの取組

6.2.1. 創造都市ネットワークを活用した連携事業の充実

将来のまちの姿

- 札幌・北海道の地理的な特性などを踏まえた海外との様々な都市間交流や互恵的な国際協力が、新たなビジネスへの架け橋になっています。

施策

- メディアアーツ都市札幌のシンボルイベント「さっぽろユキテラス」など市内外でのイベントの機会に、日本国内のユネスコ創造都市である7都市や、メディアアーツ分野加盟都市である13都市などと連携し、共同展示会や交換プログラムを実施します。
- アーティスト・専門家を含む都市間ネットワークの拡大・質的向上を図り、人材・企業の国際的な活躍の機会を創出します。

6.2.2. 文化芸術やスポーツの魅力を活用したシティプロモート戦略

将来のまちの姿

- 札幌型ライフスタイルの中から生み出される札幌・北海道の魅力を市民ひとりひとりが再認識し、多様な手段で国内外に発信することで、世界の人が集い、交流しています。
- 世界の大都市の中でも降雪量が突出している札幌は、独自の冬の文化を形成しており、厳しい冬でも雪を楽しむ魅力あるイベントやウィンタースポーツなどが、街ににぎわいを与えています。

施策

- 札幌の地域特性を生かした多様な芸術表現に触れられる「札幌国際芸術祭」を3年に1度、定期的で開催します。
- 「ラグビーワールドカップ2019」や「東京2020オリンピック・パラリンピック」の開催を通じて、文化プログラムとの相乗効果により、札幌の魅力を国内外へ発信するとともに、冬季オリンピック・パラリンピック招致に向けた取組みを進めます。



6.2.3. 創造性を生かしたイノベーションの誘発

将来のまちの姿

- 時代の潮流から生み出される新たな需要を的確に捉え、産・学・官の連携や異業種間の連携により、創造性を発揮した様々なイノベーションが起きています。
- グローバル化に対応した国際的な視野をもった人材が活躍しています。

施策

- 先端テクノロジーや斬新なアイデアを核に「新しい価値観」「新しい文化」「新しい社会の姿」を提案するビジネスコンベンションである「No Maps」の開催を引き続き支援し、IT・クリエイティブ産業の活性化と他産業への波及、創業支援、新産業の創造、札幌・北海道の魅力向上などを目指します。
- 「インタークロス・クリエイティブ・センター（ICC）」を中心に、クリエイティブ産業の振興を進めるほか、映像関連企業の海外展開を促進し、映像産業の活性化を図るために、海外事業者との映像の共同制作や国内外での地域映像コンテンツの販路拡大支援を引き続き実施します。



6.3. アクションプラン案の実施に係る年間見込予算額

予算議決前のため、具体的な額を示すことはできませんが、概ね平成28(2016)年度、平成29(2017)年度と同等の予算規模を見込んでいます。

〈平成28(2016)年度／平成29(2017)年度の主な関連予算〉……………

創造都市さっぽろ推進事業費 22,800千円／24,000千円
 国際芸術祭事業費 125,000千円／450,000千円
 映画・音楽・IT複合イベント創出支援事業費 55,000千円／80,000千円

6.4. 広報周知に関する計画

札幌市は、下記のとおりUCCNに関する意識啓発を行います。

- 日本唯一のメディアアーツ都市として、ウェブサイトやリーフレット、メールマガジン等を通じ、国内外に積極的に情報発信を行っていきます。
- 本市における優良事例の文書化、日本語から英語等他言語への翻訳等を行い、UCCNを通じて地域での実践を世界の都市と共有し、アドボカシー(政策提言)の具体的事例として提供します。
- 市内において、メディアアーツ分野をはじめとした様々な創造的活動を支援するイベントを開催することを通じて、札幌市民や企業に対してユネスコ創造都市ネットワークの意義や加盟の効果に係る啓発を行います。
- 札幌市では、創造都市の取組に関して国内外の地方自治体や地方議会議員、大学等からの視察を年間20件程度受入れており、平成25(2013)年1月以来「創造都市ネットワーク日本」の発起団体・幹事団体として、日本国内で創造都市の取組を先導、推進する立場にあります。
 こうしたネットワークを通じ、創造都市に関心を持つ地方自治体等に対して、ユネスコ創造都市ネットワークの意義等を発信し、加盟申請への助言や協力などの支援を行うことで、ネットワークの発展に貢献してまいります。



付録

Ⅰ 統計データ

● 人口(住民基本台帳ベース) 平成29(2017)年7月1日

合計	1,951,352人
0～14歳	223,952人
15～64歳	1,223,807人
65歳以上	503,593人

● 観光客入込数

平成28(2016)年度	1,388万人
--------------	---------

● 主な施設利用者数 平成28(2016)年度

札幌芸術の森	50.2万人
札幌コンサートホール	37.9万人
教育文化会館	56.2万人
青少年科学館	39.8万人
モエレ沼公園	70万人

● 市内総生産(実質) (出典:札幌市まちづくり政策局「市民経済計算」)

平成25(2013)年度	6.72兆円
平成26(2014)年度	6.68兆円

※平成27(2015)年度以降は推計作業中

● 北海道のIT産業の売上高 (出典:一般社団法人北海道IT推進協会「北海道ITレポート」)

平成25(2013)年度	4,093億円
平成26(2014)年度	4,117億円
平成27(2015)年度	4,213億円

※上記の数値は北海道全体の統計値だが、平成26(2014)年度時点で売上高の約88%、従業員の83%を札幌所在の事業所が占めている。

● 市内民営事業の従事者数 (出典:総務省統計局「経済センサス」)

平成24(2012)年	831,700人
平成26(2014)年	912,841人

※隔年調査、平成28(2016)年は集計作業中

● クリエイティブ産業の従事者数 (出典:総務省統計局「経済センサス」をもとに札幌市経済観光局)

平成24(2012)年	33,947人
平成26(2014)年	35,231人

※隔年調査、平成28(2016)年は集計作業中

● IT技術やデザイン・映像等のコンテンツを活用して高付加価値をつけようと思っている企業の割合 (出典:札幌市経済観光局「札幌市企業経営動向調査」)

平成25(2013)年	14.5%
平成26(2014)年	14.8%
平成27(2015)年	14.3%
平成28(2016)年	19.1%

● 開業率 (出典:総務省統計局「経済センサス」をもとに札幌市経済観光局)

平成21(2009)年～平成24(2012)年	2.6%
平成24(2012)年～平成26(2014)年	8.0%

II 創造都市さっぽろ (Sapporo Ideas City) 宣言 2006年3月4日

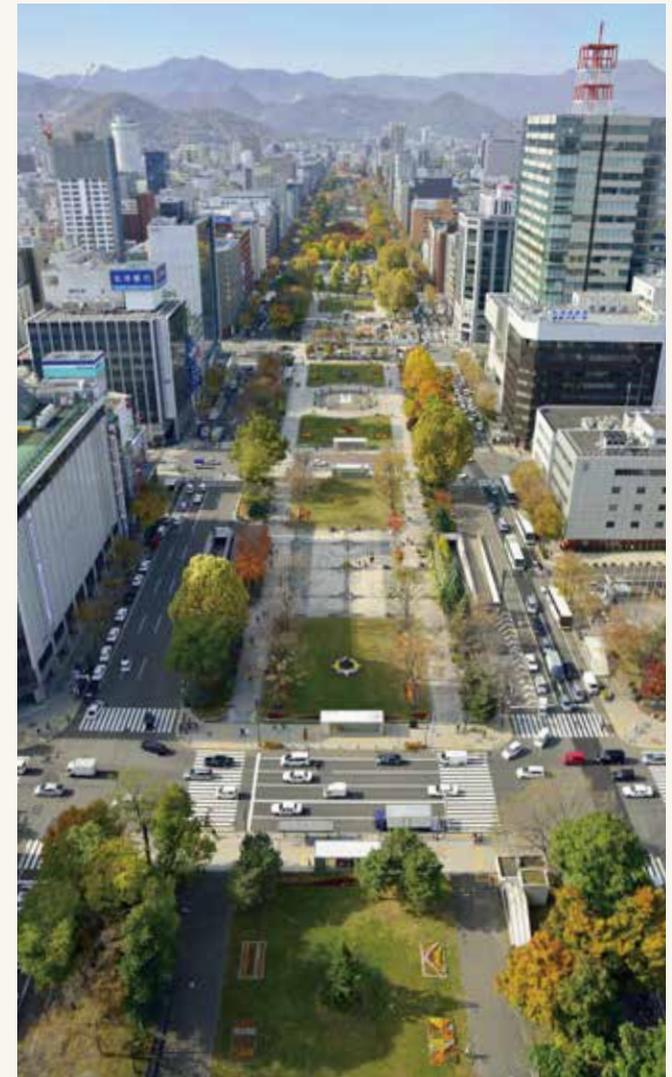
四季折々の豊かな自然と快適な都市機能を備える札幌は、
暮らす人、訪れる人の創造力を刺激し、創造性を育む環境を有しています。
「人間の創造性=アイデア」は、21世紀の社会や経済をつくる貴重な資源であり、
いま、世界の多くの都市がアイデアの重要性に着目し、地域の活性化のために活用しようとしています。
これからの私たちに必要なもの、それは、アイデアを生み、形あるものとし、創造力をいかしたまちづくりを進めることです。
恵まれた環境の中で、市民の一人ひとりが創造力を発揮し、
生活、文化、産業が、そして札幌の街がもっと元気になり、活気づき、人が集まり、都市の成長が持続していきます。
私たちが目指す創造都市・札幌は、創造性を活かしたコンテンツ産業など、新しい産業が発展し、
あらゆる産業が創造性を発揮して競争力を高め、アートやデザインが生活の中にあふれ、
感性を刺激し、感動を呼ぶ空間が生まれ、創造性あふれる人が育ち、絶えず新しいコトが起きる街となります。
そして、創造性あふれる札幌の街には、世界中の人が訪れ、市民と交流し、それがまた札幌の創造性を高めていきます。
札幌の街は、市民とオープンなコミュニケーションを図り、
全ての人の中に潜在しているアイデアや才能をまちづくりに活かしていきます。
さらに、その取り組みを世界に発信し、知識・アイデアを資本とするクリエイティブ企業や世界で活躍する人材をひきつけ、
創造的な環境を求める人々が住みたいと思う街へと札幌を変えていきます。

これからの札幌をつくるのは、「創造力=アイデア」です。

市民一人ひとりの創造性を

「Ideas City」の中で開花させ、世界の「創造都市」を牽引する存在となることを目指し、

ここに「Sapporo Ideas City」宣言をします。



III 札幌市まちづくり戦略ビジョン概要 平成 25(2013)年10月

札幌市まちづくり戦略ビジョンは、札幌市のまちづくりの計画体系において、最上位に位置付けられた幅広い分野にわたる総合計画です。

● 計画期間と目標年次

計画期間：平成 25 年度(2013 年度)から平成 34 年度(2022 年度)
 目標年次：平成 35 年(2023 年)

● 目指すべき都市像

北海道の未来を創造し、世界が憧れるまち
 互いに手を携え、心豊かにつながる共生のまち

● まちづくりの基本目標

文化を含む7分野について、それぞれ展開における「重要な視点」と合計24にわたる「基本目標」を設けています。

地 域：地域での支えあいとつながりづくり

- ① 共生と交流により人と人がつながるまちにします
- ② 様々な担い手が地域のまちづくり活動に参加するまちにします
- ③ 多様な地域課題を解決できるまちにします

子ども・若者：将来を担う子ども・若者の健やかな育み

- ⑨ 安心して子どもを生み育てられるまちにします
- ⑩ 将来を担う子どもの成長と自立を支えるまちにします
- ⑪ 若者が社会的に自立し活躍できるまちにします

文 化：文化芸術・スポーツによる創造性の育み

- ⑱ 創造的な活動により活力あふれるまちにします
- ⑲ 文化芸術やスポーツの魅力によりにぎわいが生まれるまちにします
- ⑳ 市民一人一人が魅力を再認識し発信するまちにします

経 済：暮らしと雇用を支える経済の発展

- ④ 強みを生かした産業が経済をけん引するまちにします
- ⑤ 様々な連携により産業が高度化するまちにします
- ⑥ 市民の雇用が安定的に確保されるまちにします
- ⑦ 強みを生かし世界とつながるまちにします
- ⑧ 地域コミュニティを支える産業を大切にすまちにします

安全・安心：安心して暮らせる「人に優しい」まちづくり

- ⑫ 誰もが健康的で安心して暮らせるまちにします
- ⑬ 地域防災力が高く災害に強いまちにします
- ⑭ 安全な日常生活が送れるまちにします

都市空間：魅力と活力を持続的に高める集約型のまちづくり

- ㉑ 公共交通を中心とした集約型のまちにします
- ㉒ 札幌の顔となる魅力と活力あふれる都心にします
- ㉓ 都市の価値を高めるみどりを生かしたまちにします
- ㉔ 都市基盤が適切に維持・保全されるまちにします

環 境：次世代へつなげる持続可能なまちづくり

- ⑮ 豊かな自然と共生するまちにします
- ⑯ 資源やエネルギーを有効活用するまちにします
- ⑰ 17市民が環境について学び行動するまちにします

ユネスコ
創造都市ネットワーク加盟資格
モニタリング報告書 (2013-2017)

発行：

札幌市 市民文化局文化部 文化振興課
060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目
TEL 011-211-2261

札幌市公式ウェブサイト

www.city.sapporo.jp

札幌市公式観光ウェブサイト

「ようこそさっぽろ」

www.sapporo.travel



発行日 2017年11月 01-D03-17-2199